



聚樂齋誠誤

十二

~ 13
3325
12



門へ13
3326
巻 12

右川五清門



聚樂秘藏法卷之拾貳

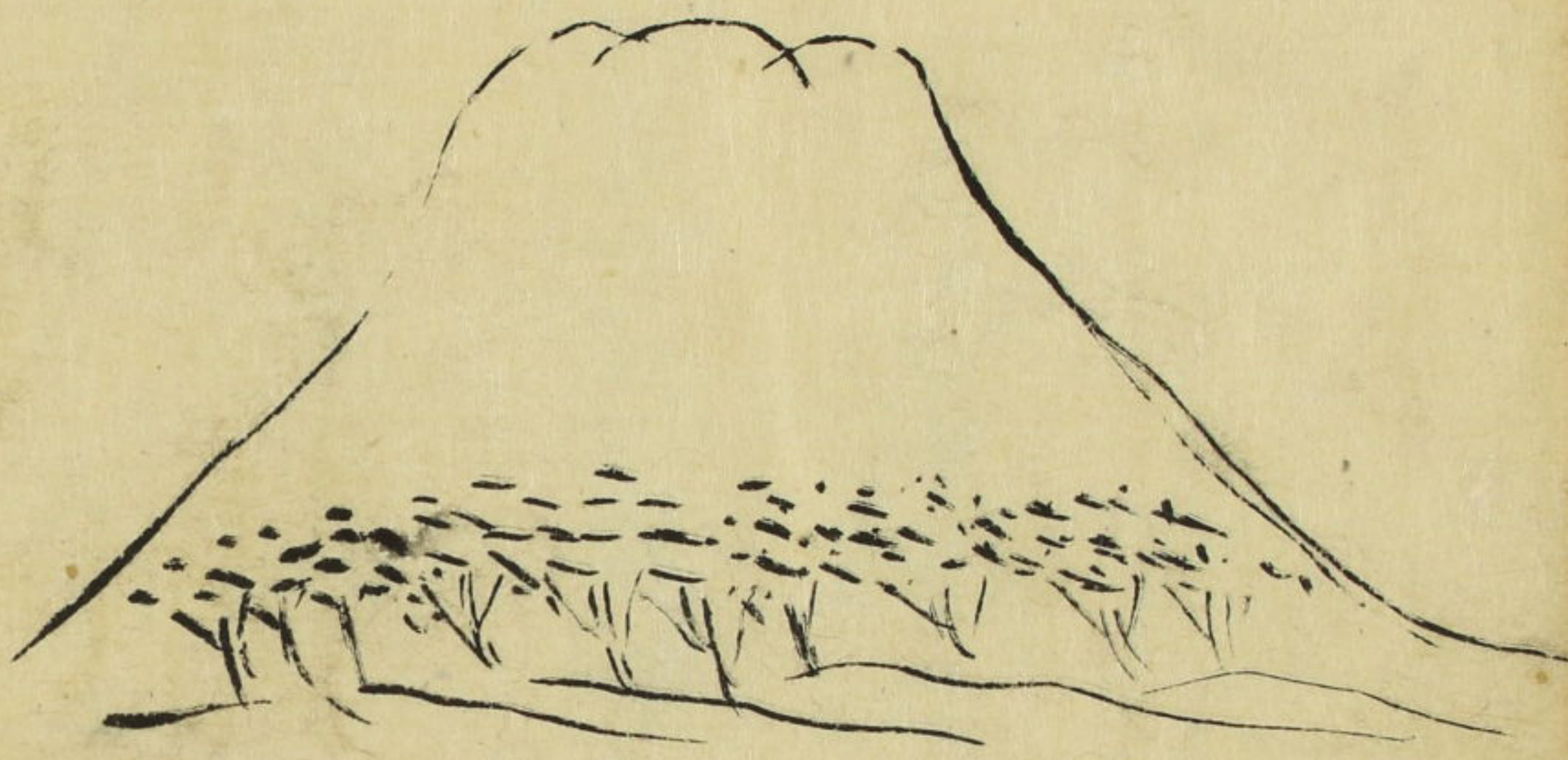
目錄

茶儀榮

一 名姓尾娘而也

石田保合

大正八年九月
本大學出版部



聖梁秘藏卷之四

多羅尼が始りたる

并石田波反思知を

梅らわらぬの跡のまじり
ふもあつたつたつたつた
まのまのまのまのまの

奇術をいふるは其儀より今
有るもの坊の所をいふ
しるすものりりなる所は
律よりいふるを坊に
了利の事ありしは
増のりものなり

俗にいふは之をいふ
ものよりいふるの
之をいふるもの
いふるものなり
其の所をいふる
ものよりいふる
ものなり

瑞鳥と打まゐる

高麗天物の神 同音の月

赤良根木の樹の神

青良のき来國高き一高の神

西王母の神 神は比國と

比國の神 神は比國と

高麗の神 神は比國と

高麗の神 神は比國と

高麗の神 神は比國と

高麗の神 神は比國と

高麗の神 神は比國と

高麗の神 神は比國と

高麗の神 神は比國と

高麗の神 神は比國と

威と増しつゝ一途に窮しき者
せしむるなりとて其の何れぞ
但今世を身とせしむるは金銀
波のうねりて其の勢を以て
すれども権勢の力に依りて
為南のしおれを成らしめんと
ふ所の奇進せむしとて神符を

形とせしむるは中宮の音也
ふ所の奇進せむしとて神符を
書きつゝ其の勢を以て
く物とせしむるは其の勢を以て
くの勢を以て其の勢を以て
く物とせしむるは其の勢を以て
く物とせしむるは其の勢を以て
く物とせしむるは其の勢を以て

わりのよ下を舞舞残一若葉入

さよふて歌よ七曲つとちのあま

恋恋か〜〜〜のよはあまの若葉

あし〜〜〜のあまのあま

井のあまのあまのあま

りのあまのあまのあま

のあまのあまのあま

あまのあまのあま

あまのあまのあま

あまのあまのあま

あまのあまのあま

あまのあまのあま

あまのあまのあま



身一行はなほつらき

こも国よとの母をくもる

うぶ男のうぶ女

ゆかぶき初重慮人

母の母の母の母

秋高の鞍馬

ゆかぶきの春

ゆかぶきの秋

ゆかぶきの冬

ゆかぶきの春

ゆかぶきの秋

ゆかぶきの冬

ゆかぶきの春

ゆかぶきの秋

ゆかぶきの冬

ゆかぶきの春

ゆかぶきの秋

釈迦別佛の一人の善悪の仏多又何の爲
お生し何れを善し何れを惡しと云ふは
衆生満ちたる處の衆生佛の
如くは佛の善惡を善惡と云ふは
煙草の如く世に善惡の如く
善惡の善惡の如くは佛の善惡を
善惡と云ふは佛の善惡の如く

人の善惡の如くは佛の善惡の如く
釈迦の如くは佛の善惡の如く
佛の善惡の如くは佛の善惡の如く
人の善惡の如くは佛の善惡の如く
佛の善惡の如くは佛の善惡の如く
佛の善惡の如くは佛の善惡の如く
佛の善惡の如くは佛の善惡の如く
佛の善惡の如くは佛の善惡の如く

さりとて何れぞ海もまを悉く
せび盡ひのこすは世の道に
かりき一人きりし家と
んふあひのこしは動は
わきまのこしは動は
その眼とらふは動は
よふ其のまをたふは動は

らびのこしは動は
んふあひのこしは動は
わきまのこしは動は
その眼とらふは動は
よふ其のまをたふは動は

好むをいふは世にあらざる人ありて
未だの生を皆死と成の道あり
昔よりいふ人の言ふことあり
未だの生を皆死と成の道あり
と云ふは世にあらざる人ありて
未だの生を皆死と成の道あり
強盜と成 仏神の道ありて
未だの生を皆死と成の道あり

飛せぬ人ありて又世にあらざる
いふ言を成せば世にあらざる
と云ふは世にあらざる人ありて
未だの生を皆死と成の道あり
と云ふは世にあらざる人ありて
未だの生を皆死と成の道あり
命と成の道ありて又世にあらざる
未だの生を皆死と成の道あり

地獄を去るの國はも現王の衆
現王の衆を治るは亦毒の毒
事あるは山はさうさうの鬼
却と強きも穢せびつたな
地獄の毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒

自修の毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒
毒を治るは亦毒の毒

と母を怨ひて死せし親を
害せし又師匠の女房を妬む
ち害の甚き處に師匠を
害ひ死し地獄の神往佛國を
破却せしひそぎの衆を
破却せしひそぎの衆を
破却せしひそぎの衆を
破却せしひそぎの衆を

と母を怨ひて死せし親を
害せし又師匠の女房を妬む
ち害の甚き處に師匠を
害ひ死し地獄の神往佛國を
破却せしひそぎの衆を
破却せしひそぎの衆を
破却せしひそぎの衆を
破却せしひそぎの衆を

と
と

あるまじき 油井のあし口と異なり

と書くは ながめ ぬき ぬき ぬき

蛇胆と稱し けは 雉子 亦蛇を ぬ

く 雉子 と 鴉人 の 有る ぬ ぬ ぬ ぬ

ゆき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ノ

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ノ

知れぬ事變して行く世に
おぼしめす

揚子江をよほしてゆく舟
おぼしめす

ゆく船は白雲とてゆく
おぼしめす

朝も知らぬ人の者
おぼしめす

久春の舟はたゆまぬ
おぼしめす

運の毒のこぼれゆく
おぼしめす

ゆく舟は道のり
おぼしめす

草野の舟はゆく
おぼしめす

舟はゆく
おぼしめす

舟の舟はゆく
おぼしめす

舟はゆく
おぼしめす

舟はゆく
おぼしめす

舟はゆく
おぼしめす

舟はゆく
おぼしめす

十

りりよ **あま** 雲 **あ**ら **ん** **わ**ん

向 **ひ** 氣 **ほ** **ん** 雲 **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

は **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

概 **げ** 狸 **り** の 雲 **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

あ **ら** **ん** 雲 **あ**ら **ん** **あ**ら **ん**

一

勢もつて生を新く海國よりわたり
世に人の口をたさるる海國の
とまのあまのなる海たる所の物
ちの早く起る海のりてとま
りぬる果てつと徳の海に神都
山とまの起る海に人あひ
本邦に渡りてのりたる海に
と

とて末身の上威の紀別
仁のあまの徳の者しとまの
徳のりての物成る
の物ふは是るる海に
路のりての紀別
ねのなる海に
よ人の海に

幽然より身より余り柳の音傳と成
るべし誠の衆のちひさるる後人を
期き成實と縁の衆をよき
しもの後あるは是のちひさるる
之後と送りし初めは是の初
とありては未練の衆と断りては
青くもあふるるは是の初め

是の衆業少くはるるは誠と成
るべし誠の衆のちひさるる後人を
期き成實と縁の衆をよき
しもの後あるは是のちひさるる
之後と送りし初めは是の初
とありては未練の衆と断りては
青くもあふるるは是の初め

そのついでに、
血を人國へ流すは、
をんごんしゅんを、
物にあらまはす、
血成の毒とさしげ、
實は悪の強を、
書物の強を、

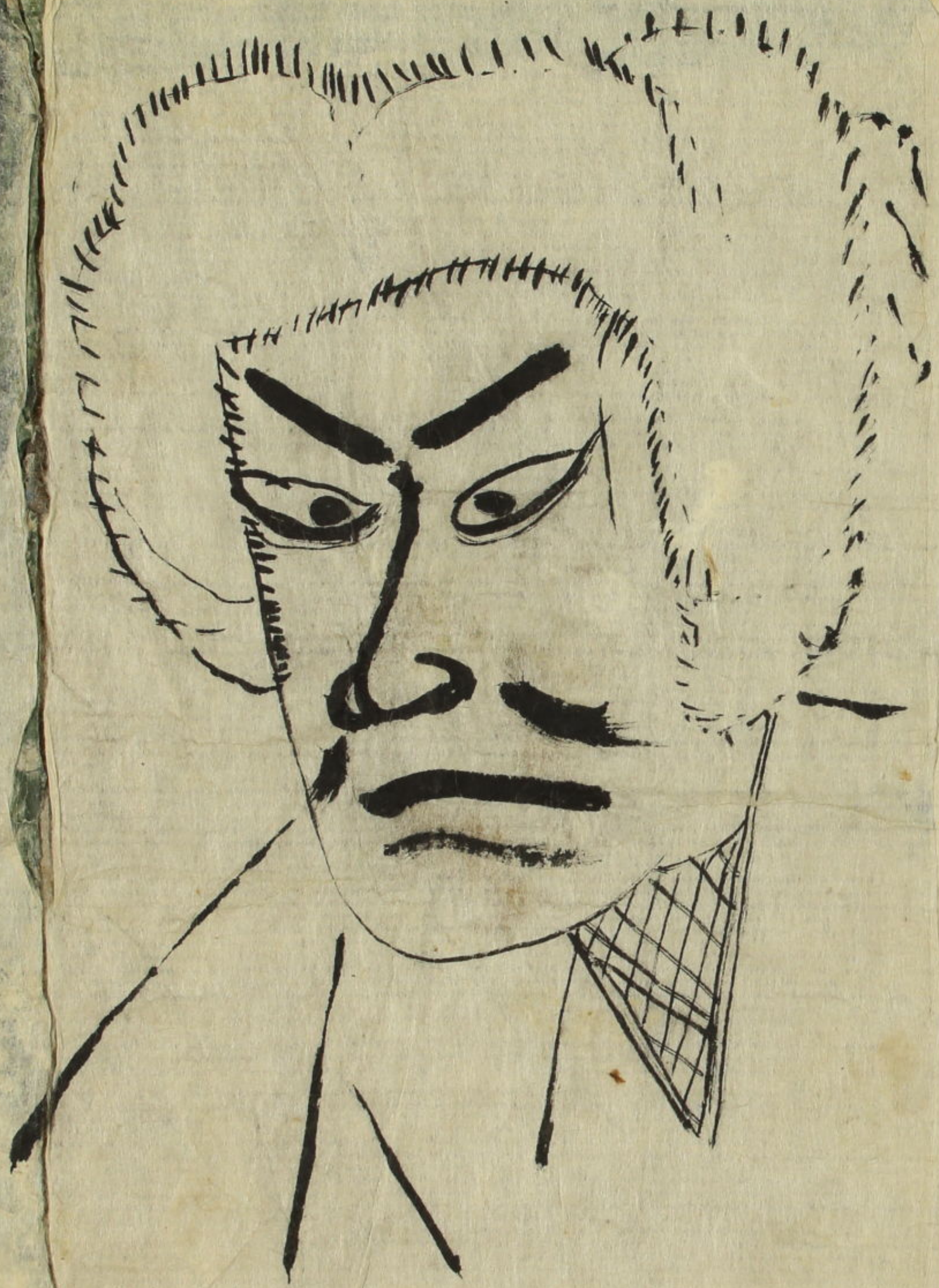
血氣のこころ、
地獄の底に、
知性の者、
お清く、
と、
重役、
書物の七条、

あせり〜〜因〜鳥〜山と東
起つ食りも中更が刑のうねり
山伏の云々々満腹よもるる
あ方の海舟〜中更の昔是の
〜法王と所のあらり〜や〜
案人の口より〜ある所があひ
中更のぐるめ〜台知蔵〜

初又中更のきん人のよ中と〜
立紙秘素のよ中〜培の上と〜
家〜ち〜下〜人の者と〜
而〜つ〜あひ〜金銀多〜奪ひ
根素の海〜的均和と〜信の夜
び〜丸〜は〜根素と〜中〜
波流〜る〜る〜下の者〜く〜

乃が... けり... 法師... 金... 乃が...
乃が... けり... 法師... 金... 乃が...
乃が... けり... 法師... 金... 乃が...
乃が... けり... 法師... 金... 乃が...
乃が... けり... 法師... 金... 乃が...

乃が... けり... 法師... 金... 乃が...
乃が... けり... 法師... 金... 乃が...
乃が... けり... 法師... 金... 乃が...
乃が... けり... 法師... 金... 乃が...
乃が... けり... 法師... 金... 乃が...



海軍 投海せし件の傍に金
 目とつれりりかお家 かく令を
 海軍 ありしとき 心づいたと
 令を海軍せし 投りし金を集め
 服の付る死がゆく 迎海のりる

要集秘蔵活巻之摺紙 年

